

研究報告

地域問題解決の仕掛けとしての生涯活躍のまちの活用

Study on the Japanese Continuing Care Retirement
Community

大橋美幸

OHASHI Miyuki

抄録

5つの「生涯活躍のまち」構想を紹介した。「生涯活躍のまち」は高齢者移住だけでなく、地方創生の仕掛けとして活用されており、地域のかかえる課題の総合的な解決が目指されている。北海道厚沢部町では町立病院改革と共生社会づくり、新潟県南魚沼市では国際大学と連携した高齢者の生きがいづくり、海外IT企業の誘致等が進められている。石川県輪島市にはJOCA（青年海外協力協会）から青年海外協力隊OBが移住し、長野県佐久市ではクラウドファンディング等を利用した「まちづくり会社」の立ち上げが検討されている。鳥取県南部町では空き家を借上げて町負担で改修して貸し出す、新たな「空き家バンク」が行われており、加えてJASCA（全国学生連携機構）のフィールドワークが取り組みにつながっている。このような①まちづくり会社、②青年海外協力隊OBや学生のフィールドワークとの連携、③空き家の借上げ及び改修等の新たな手法も生まれており、展開が期待される。

キーワード：生涯活躍のまち、日本版CCRC、移住、人口減少社会

1. はじめに

「生涯活躍のまち」は、東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを言う。

背景には、東京圏の高齢者の受け皿不足とともに、地方の人口減少がある。アメリカの退職者コミュニティである CCRC (Continuing Care Retirement Community) をモデルにしており、高齢者が健康な時に移り住み、就労やボランティア等に積極的に参加し、支え手となっていくことが目指されている。

7つの基本コンセプトとして、移住支援、健康でアクティブな生活、多世代との協働、継続的なケアの確保、情報公開等の透明性、多様な支援等と並んで、IT活用等による効率的なサービス提供が掲げられている¹⁾。

2016年の地域再生法改正によって制度化された。今年度、各地で構想が策定され、整備がはじめられている。

生涯活躍のまちは、アメリカの退職者コミュニティの CCRC の導入として、高齢者の移住や自立支援(松田(2017)、斎藤ら(2017)、月刊介護保険編集部(2015)、月刊シニアビジネスマーケット編集部(2017a))、大学等との様々な連携(松田(2017)、月刊シニアビジネスマーケット編集部(2017b))等が注目されてきたが、日本では地方創生の一環として導入された経緯があり、日本版 CCRC ならではの様々な展開が見られる。

「生涯活躍のまち」を活用して、地方がかかえる問題を総合的に解決しようとする試みである。また、問題解決にあたり、共通の手法が用いられており、事例を紹介し今後の展開の可能性を考察する。

2. 事例紹介

各地の「生涯活躍のまち」構想及びモデル地区の訪問インタビューを行った。その中から5つの「生涯活躍のまち」構想を紹介する【表1】。いずれも「生涯活躍のまち」を活用し、地域がかかえる問題を総合的に解決することが目指されている。アメリカの CCRC に見られる退職者コミュニティや移住だけでなく、地方創生における「生涯活躍のまち」の先駆的事例として注目されるところである。

表1 「生涯活躍のまち」事例の概要

	北海道厚沢部町	新潟県南魚沼市	石川県輪島市	長野県佐久市	鳥取県南部町
地域状況	人口約 4000 人 東京圏から飛行機 で 90 分+バス 90 分	人口約 58000 人 東京圏から新幹線 で 90 分	人口約 28000 人 東京圏から飛行機 で 60 分+車で 30 分	人口約 99000 人 東京圏から新幹線 で 80 分	人口約 11000 人 高齢化率 東京圏から飛行機 で 70 分+バス 40 分
これまでの 移住促 進策	・移住体験住宅 ・住宅の新築助成 ・移住ツアー実施 等	・住宅の新築・改修 助成 ・移住体験住宅と ボランティア等を含 む体験プログラム 等	・空き家バンク ・住宅の新築助成 等	・移住体験住宅 ・空き家バンク ・住宅の新築・改修 助成 ・移住者の新幹線 通勤の費用助成 ・JR と連携した東 京圏の往復旅費助 成 等	
生涯活躍 のまち の概要	・有料老人ホーム 等の開設 ・配食センターの 建設 ・子ども園の建設 ・サービス付き高 齢者向け住宅の建 設 ・医療体制の検討	・ホームステイ受 け入れ住宅、シェア ハウス、店舗付き住 宅等を建設 ・英語保育、英語サ ークルの実施 ・移住高齢者等を 対象とした健康づ くり、食等の地域サ ービスを目指す「南 魚沼板 CCRC ビジ ネス研究会」を実施 ・海外 IT 企業を誘 致する「グローバル IT パーク構想」	・サービス付き高 齢者向け住宅建設 ・デイサービス、コ ミュニティスペー ス等の建設	・サービス付き高 齢者向け住宅建設 ・地元病院が運用 するコミュニティ センターの活用	・移住体験住宅+ コミュニティスペ ースを開設、レスト ラン+高齢者サー ビス等を計画中 ・小さな拠点 2 カ 所 ・一括借り上げで、 町の費用負担で改 修を行う空き家バ ンク ・移住相談と無料 職業紹介 ・里山関連の講座
生涯活躍 のまちに 関連した 取り組み	・東京圏のアンテ ナショップ ・教育旅行の受入 り		・ブランド認定		・ふるさと納税 ・JASCA からのつ ながり、起業支援
実施体制 等の特徴	・まちづくり会社 ・地域おこし協力 隊	・まちづくり会社	・JOCA から人材 派遣	・まちづくり会社	・まちづくり会社 ・JOCA から人材 派遣

2.1. 北海道厚沢部町

生涯活躍のまちは、これまでを含む医療や福祉に関する取組を包括するものとして位置付けられている。

背景には赤字を続ける町立病院がある。社会的入院の解消に向けて、2013年に町役場横の町有地を利用して、有料老人ホーム、デイサービス、グループホームがつくられた^{2, 3)}。2017年に学校や高齢者世帯へ食を提供する給食センターができた。子育て支援については来年度に3つの保育所を統合して認定こども園ができる予定である。さらに、移住促進に向けて移住体験住宅とサービス付き高齢者向け住宅が計画されており⁴⁾、加えて、高校を卒業すると他市町村へ流出してしまう若年層について卒業後の地元就職につながる学ぶ場として福祉系専門学校が検討されていた⁵⁾。福祉系専門学校は介護福祉士の資格取得、経験者の再就職に向けた研修、海外からの人材募集等が考えられていたが、全国的に福祉分野の希望者が少ない中で、開校しても学生が集まらないことが考えられ、実際には実現されなかったが、過疎地に雇用と担い手を確保する方策であった⁶⁾。

移住を主に担当しているのは「まちづくり会社」である。ここで言う「まちづくり会社」は中心市街地のまちづくりにおいてタウンマネジメントを行う組織ではない。移住の相談、広報、支援等を行うとともに、移住支援から派生して、地方創生に向けてシティプロモーション、観光等を幅広く行っている。厚沢部町では地域おこし協力隊も加わって、移住相談、広報、移住体験住宅の管理運営だけでなく、教育旅行の受け入れ、東京圏のアンテナショップへの食材提供等を行っている。まちづくり会社の名称は「素敵な過疎づくり株式会社」、町の100%出資で2009年につくられた^{7, 8)}。厚沢部町では2009年に「厚沢部素敵な過疎のまちづくり基本条例」をつくり、移住促進と町の魅力発信に力を入れてきた⁹⁾。生涯活躍のまちはそれらの取り組みと連動したものである。

2.2. 新潟県南魚沼市

南魚沼市には国際大学があり、すべての授業を英語で実施し、約40の国や地域から多くの留学生が訪れている。「生涯活躍のまち」において、東京圏から移住する高齢者は、大学との連携により、英語等のこれまでに培った多様な能力を活かして、国際大学等の公開講座を受講したり、留学生等のサポートをするこ

とが期待されている^{10, 11)}。東京圏で実施されている移住セミナーでは、日本版CCRCの説明とともに、起業や国際交流に関わるセカンドライフが紹介されている¹²⁾。加えて、国際大学近くのアパートを移住体験住宅として、ボランティア等の地域活動に参加する移住体験プログラムが行われきた¹³⁾。現在、計画されている移住者向け住宅は、ホームステイ受入住宅やシェアハウス等が考えられている¹⁴⁾。

また、高齢者だけでなく、英語保育所や英語サロンの実施等、子育て世帯に向けた英語を活かした地域サービスも考えられている¹¹⁾。

そして移住する高齢者等は顧客となる。健康づくり、食を中心とした地域ビジネスの起業や誘致が考えられており、「南魚沼CCRCビジネス研究会」が実施されている¹⁵⁾。

そして、国際大学のネットワークを活用した「グローバルITパーク構想」がある。市役所別館の空きスペースを利用して、海外IT企業を誘致するものである¹⁶⁾。昨年8月にはじまり、現在、スリランカ等からグローバルにITを展開する5社の入居が決まり、3人が働いている。南魚沼市においてITを活用した農業や教育、健康づくりとの連携が考えられている¹⁷⁾。

移住や起業支援を担うのは「まちづくり会社」である。南魚沼市まちづくり推進機構(MMDO)として、市や民間企業等の出資を受けて、今年4月に設立された。移住相談、移住体験住宅、空き家バンク、東京圏での移住セミナー、移住者向けの健康づくりや生涯学習の企画や運営(支援)だけでなく、市民向けの起業支援や技術研修、「グローバルITパーク構想」への企業誘致と入居企業に対するマッチング等を行う予定である¹⁸⁾。

2.3. 石川県輪島市

「生涯活躍のまち」構想は「輪島KABULETプロジェクト」と呼ばれている。輪島中心市街地に、サービス付き高齢者向け住宅が6戸つくられており¹⁹⁾、介護保険の通所介護、訪問介護、介護保険以外の家事代行サービス、障がい者関係では就労継続支援A型・B型、生活介護、グループホーム、放課後等デイ、他に温泉、アルパカ等がいる牧場、コミュニティレストラン、漆工房、市民農園、健康づくりや子育て支援の場づくり等が計画としてあがっていた²⁰⁾。また、ゴルフ場で利

用する電動カートを使って観光地までの移送サービスが試行されている²¹⁾。

輪島KATURETプロジェクトは、輪島KABURET®として商標登録し、まちづくりへの参加、漆の商品開発・販路拡大、交通、景観等を認証していくことが考えられている。「輪島をより面白く豊かなものへと導くことを目的に」、総合的なまちづくりが目指されている²⁰⁾。

実施主体は「生涯活躍のまち」のモデルとなっているShare金沢を運営している社会福祉法人佛子園である²²⁾。担い手として、JOCA（青年海外協力協会）から青年海外協力隊OBの11人が社会福祉法人に出向して移住しており、3人は家族づれである。JICAの派遣国はグアテマラ、パラグアイ、ドミニカ共和国、エジプト、ヨルダン、ザンビア等であり、活動分野も野菜栽培、感染症対策、栄養、幼児教育、ソーシャルワーカー等様々である²³⁾。JOCAのつながりを使用して、国際交流や海外からの研修先になることも期待されている。

2.4. 長野県佐久市

東京から新幹線で80分という立地を活かして、以前から東京圏からの移住に力を入れてきた。移住者の新幹線通勤の費用助成をしたり、JR東日本と連携して、JR東日本「大人の休日倶楽部」会員を対象に、移住ツアーを行ったり、移住者の往復を助成したりしている²⁴⁾。従来の空き家バンク、移住体験住宅、移住者の新築・改修助成等も行っている²⁵⁾。「生涯活躍のまち」では、サービス付き高齢者向け住宅が建設される予定である^{26、27)}。

加えて、地元の総合病院が健康づくり、在宅医療介護連携に取り組んでおり、病院関連法人のコミュニティセンターの活用が考えられている。コミュニティセンターには、まちかど健康相談室、健康づくりや子育て広場、地域包括支援センター、チャレンジショップがある²⁸⁾。

まちづくり会社を設立し、移住のワンストップ窓口、空き家等の活用、サービス付き高齢者向け住宅の運営支援、移住者の就労・企業等支援、移住者の生涯学習・ボランティア活動等支援を担う予定である²⁷⁾。まちづくり会社は佐久市、民間企業や市民の出資とともに、クラウドファンディングの利用が考えられている。佐久市からの委託料やサービス付高齢者向け住宅の事業者からの入居者紹介料等で運営される予定である²⁹⁾。

2.5. 鳥取県南部町

役場近くに中心となる拠点、離れた地域にまず2か所のサテライト拠点をもうけ、一括借上げで改修を行う新しい形態の空き家バンク等と合わせて、町全域をカバーする計画である。

役場近くにはすでに「えん処米や」として移住体験住宅、コミュニティスペースがつくられており、さらに高校跡地を利用して健康増進施設、レストラン、高齢者サービス等が検討されている。

サテライト拠点は2か所とも「小さな拠点」であり、1か所は空き家を活用して、盛り込む機能が検討されている^{30, 31)}。これまでから南部町にJASCA（全国学生連携機構）から学生がフィールドワークに訪れており³²⁾、この地域に空き家を活用した拠点が提案されていた。その提案を実現させたものである³⁰⁾。もう1か所の小さな拠点は新築で、多世代交流スペース、物販機能、学習スペース、地域振興協議会の事務所をもうける予定である。学習スペースは、JASCAで南部町を訪れた学生が卒業後に移住して学習塾をはじめており³³⁾、その場所を提供するものである。また、事務所をもうける地域振興協議会は町内に7つあり、各地域の課題を話し合い、助け合い活動を行っている³⁰⁾。

これらの運営には、まちづくり会社関わっている。昨年4月に「NPO法人なんぶ里山デザイン機構」が立ち上げられた。南部町では地方版総合戦略を町民と町外の学識経験者からなる100人委員会をつくって策定しており、その代表が、まちづくり会社の理事長になっている³¹⁾。仕事内容は①前述の「えん処米や」の運営、②空き家バンク、③移住相談、無料の職業紹介、④ふるさと納税、⑤「なんぶ里山デザイン大学」と呼ばれる里山関連の講座の実施である。①「えん処米や」は2階建ての古民家を利用している。移住体験住宅部分は1泊から2週間の利用ができ、1泊3000円である³⁴⁾。今年8月までに5組の利用があったが、移住にはつながっていない。コミュニティスペースは事前予約制で無料。近隣の趣味の会等に使われている。②空き家バンクは空き家を10年一括借上げし、町が費用を負担して改修し、不動産業者が移住者に紹介する。賃貸にあったっては、移住前に地元区長と顔合わせをし、町内会加入を条件としている。登録されている空き家は現在21件。一括借上げによる費用負担なしでの改修は新しいかたちと言える^{30, 35)}。③移住相談に加えて、無料の職業紹介はこれまでから町が行っていた。

ハローワークと同じ端末を使用して、昨年12月からまちづくり会社でも実施するようになった。④ふるさと納税は、寄付の受付、返礼品の発送、返礼品カタログの制作、新規返礼品の開拓を行っている。これまで町が行ってきた時の返礼品を含めた経費が寄付の7割だったため、まちづくり会社に寄付額の7割で委託されている。⑤「なんぶ里山デザイン大学」のきっかけは、2年前に南部町全域が、環境省の重要里地里山に選ばれたことである。しめ縄づくり、梅干しづくり等を体験する「里山子育て講座」、里山の生態等を学ぶ「里えんす・カフェ」等が行われており、町内外から多くの参加者がいる^{36、37}。

また、町長の知り合いからの紹介で、青年海外協力隊OBが取り組みに参加している。現在、JOCAから2人が派遣されて、地域振興協議会の支援、イベントや海外交流等を行っている³⁸。

移住に向けた広報については、移住サイトを立ち上げ、今年3月にはじめての移住ツアーを行い10人が参加した^{30、39}。

3. 手法

前述した5つの「生涯活躍のまち」構想では一部に共通した手法が見られる。まちづくり会社、青年海外協力隊OBや学生のフィールドワークとの連携、空き家一括借上げ及び改修を取り上げる。

3.1. 新たな「まちづくり会社」

北海道厚沢部町、長野県佐久市、鳥取県南部町では、まちづくり会社が「生涯活躍のまち」の実施主体となっている。いずれも、中心市街地のまちづくりでタウンマネジメントを行う「まちづくり会社」ではなく、移住のためにつくられたものであり、移住から派生して、地方創生に関連して幅広い取り組みを担っている。

厚沢部町では、「素敵な過疎づくり株式会社」が移住相談や移住体験住宅とともに、教育旅行の受け入れ、東京圏のアンテナショップの食材の出荷を実施している。佐久市では、まちづくり会社が移住のワンストップ窓口、移住者の社会活動支援等とともに、空き家の不動産活用事業等を行う予定である。移住者の南部町では、「NPO法人なんぶ里山デザイン機構」が移住相談や無料職業紹介、移住体験住宅、空き家バンクとともに、ふるさと納税に関わり、コミュニティスペー

スの運営、地域資源に関する公開講座を行っている。

ただし、まちづくり会社は移住のすべての部分を担当しているのではなく、厚沢部町⁴⁾、佐久市²⁷⁾ではサービス付き高齢者向け住宅の運用は別の民間会社の予定であり、南部町でもサテライト拠点の移住体験住宅は別の民間会社が考えられている³⁰⁾。移住の担い手は必要に応じて切り分けられている。

厚沢部町は100%町出資であり、町長が代表者となっている。佐久市は市や民間企業・市民の出資とともにクラウドファンディングの利用が考えられている²⁷⁾。南部町は町からの出資はされておらず、地域版総合戦略を策定した際の委員会の代表が理事長となっている³⁰⁾。成り立ちは様々である。

生涯活躍のまちを活用した地方創生において、必要な範囲をカバーし、多様な事業を行うことができる、新たなかたちの「まちづくり会社」の手法は有効であると考えられ、今後の展開が期待される。

3.2. 青年海外協力隊OB、学生のフィールドワークとの連携

石川県輪島市ではJOCA（青年海外協力協会）から青年海外協力隊OBが出向してきており、海外の開発経験者が社会福祉法人で地域活動に携わっている。同じく鳥取県南部町ではJOCAから青年海外協力隊OBが派遣されており、海外の開発経験者が地域住民の活動を支援したり、海外交流等を行っている。加えて、南部町ではJASCA（全国学生連携機構）から学生のフィールドワークを受け入れており、提案を受けて、生涯活躍のまちの計画につながったり、フィールドワークで訪れた学生の卒業後の起業支援の場を生涯活躍のまちの中につくったりしている。

このように生涯活躍のまちでは青年海外協力隊OB、他地区の学生のフィールドワーク受け入れとの連携が見られる。北海道厚沢部町では地域おこし協力隊が生涯活躍のまちに携わっているが、地域おこし協力隊だけではない、新たな人材探しのかたちが表れている。

JOCA、JASCA等の全国規模組織との連携によって、地域問題解決の経験者であるフィールドワーカーが得られることは、生涯活躍のまちを活用した地方創生において有効であると考えられ、今後、全国的な広がりが期待される。

3.3. 空き家一括借上げ及び改修

鳥取県南部町では空き家を10年一括借上げして、町の費用負担で改修し、不動産業者が賃貸するかたちが取られている。これまでの空き家を登録して移住者に紹介するだけでない、新たな「空き家バンク」である。

実際に使われなくても、町から固定資産税に相当する費用が支払われるため、空き家の所有者の費用負担はゼロである³⁵⁾。

加えて、移住者への賃貸にあたって、地元地区長への紹介が行われ、町内会への加入を条件としている。移住者と住民をつなげ、継続的に地域に関わっていく仕掛けをつくっているのである。

この「空き家バンク」のかたちは、空き家を活用しながら質の良い物件を創出し、移住者と住民をつなげていくものであり、生涯活躍のまちを活用した地方創生において有効であると考えられる。仕組みはまだはじめられたばかりであり、今後の展開が期待される。

4. まとめ

「生涯活躍のまち」は、退職者コミュニティや移住だけでなく、地方創生の仕掛けとして活用されており、地域のかかえる課題の総合的な解決が目指されている。地方創生における「生涯活躍のまち」として、まちづくり会社、青年海外協力隊OBや学生のフィールドワークとの連携、空き家の一括借上げ及び改修等の新たな手法も生まれており、今後の展開が期待される。

現段階において「生涯活躍のまち」は構想ができ、整備がはじまっているところであり、今後、実際の運用について継続的に経過を追っていきたい。

注記

- 1) 日本版CCRC構想有識者会議（2015）『「生涯活躍のまち」構想（最終報告）』
- 2) 高橋英與（2015）「日本版CCRCの具現化と『ゆいまーる』の事例紹介」<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/ccrc/h27-07-22-siryou6.pdf>（2017年8月8日確認）
- 3) コミュニティネットワーク協会（2015）「厚沢部版CCRCづくり 過疎化・高齢化はコミュニティあるまちづくりから」
- 4) 厚沢部町建設水道課（2016）「上里 移住体験住宅・移住交流センター整備基本計画（案）」
- 5) 厚沢部町（2015）「生涯活躍のまち構想にかかる移住情報について」<http://www.town.assabu.lg.jp/gyousei/gif/20151211103925000000000000.pdf>（2017年8月8日確認）
- 6) 厚沢部町総務政策課インタビューによる
- 7) 厚沢部町素敵な過疎づくり株式会社（2016）「素敵な過疎づくり(株)の取り組み」
- 8) 石井淳平（2015）「「素敵な過疎のまち」への挑戦:北海道厚沢部町」『月刊自治研』57 41-45ページ
- 9) 厚沢部町（2009）「厚沢部町素敵な過疎のまちづくり基本条例」<http://www.town.assabu.lg.jp/modules/topics/index.php?page=article&storyid=15>（2017年8月8日確認）
- 10) 南魚沼市（2015）『南魚沼版CCRC構想 多世代が輝くプラチナタウンの実現に向けて』
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/7/14050.pdf>（2017年8月8日確認）
- 11) 南魚沼市（2016）「南魚沼版CCRC構想 カレッジリンク・新設移住型」
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/119/CCRC201608.pdf>（2017年8月8日確認）
- 12) 南魚沼市（2017）「中高年齢者向け移住・定住促進（南魚沼市セカンドライフ塾）実施状況（東京開催分）」
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/119/second2.pdf>（2017年8月8日確認）
- 13) 南魚沼市（2016）「南魚沼版CCRCウインター・トライアル2016開催」
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/shisei/keikaku/teijyu/1454742449085.html>（2017年8月8日確認）
- 14) 南魚沼市（2017）「南魚沼版CCRC（生涯活躍のまち）構想事業化ステージ基本計画（その1）抜粋」

<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/119/20170525shiryo2.pdf> (2017年8月8日確認)

15) 南魚沼市 (2016) 「南魚沼市 CCRC ビジネス研究会 (プラチナ社会研究会「CCRC セカンドライフと新規事業開発・雇用創出分科会) 参加要領」

<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/119/20160706business.pdf> (2017年8月8日確認)

16) 南魚沼市 (2016) 「『グローバルITパーク南魚沼』構想について」

<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/business/sangyoushinkou/sangyouzenpan/1463561903615.html> (2017年8月8日確認)

17) 南魚沼市 (2017) 「市報みなみ魚沼 平成29年6月1日発行」

18) 南魚沼市 (2017) 「一般社団法人南魚沼市まちづくり推進機構 定款」と南魚沼市インタビューによる

19) 社会福祉法人佛子園 (2017) 「輪島KABURET®プロジェクト 奥能登初のサービス付き高齢者向け住宅 新橋邸 2017年10月入居開始」<http://wajima-kabulet.jp/project/shinbashitei/info/> (2017年8月8日確認)

20) 社会福祉法人佛子園 (2016) 「輪島KABURET®の仕事」<http://wajima-kabulet.jp/work/> (2017年8月8日確認)

21) 社会福祉法人佛子園 (2016) 「漆とともに暮らす@輪島」<http://wajima-kabulet.jp/life/> (2017年8月8日確認)

22) 小野貴史 (2017) 「“ごちゃませ”で再生する地域力 社会福祉法人佛子園 (石川県金沢市)」『Visionと戦略』6 4～7ページ、保健・医療・福祉サービス研究会

23) 公益社団法人青年海外協力協会 (2015) 「協力隊経験を地方創生に 石川県輪島市で「生涯活躍のまちづくり」事業を開始」<http://www.joca.or.jp/information/h27/1225.html> (2017年8月8日確認)、輪島市及び青年海外協力協会のインタビューによる

24) 株式会社びゅうトラベルサービス (2017) 「新幹線大人の住まいプラン佐久」

<http://www.city.saku.nagano.jp/kanko/oidenanshi/teijusokushin/sumairu.files/shirashi-smileplan-29kamihanki.pdf> (2017年8月8日確認)

25) 佐久市 (2017) 「新：平成29年度移住促進サポートプラン (移住促進住宅取得費補助金) について」

<http://www.city.saku.nagano.jp/kanko/oidenanshi/teijusokushin/supportplans.html> (2018年8月8日確認)

26) 佐久市 (2015) 『佐久市生涯活躍のまち構想』

https://www.city.saku.nagano.jp/shisei/seisaku_shisaku/usudakatuyaku/shougaiikatuyaku.files/sakutei.pdf (2018年8月8日確認)

- 27) 佐久市 (2016) 「地域再生計画」
https://www.city.saku.nagano.jp/shisei/seisaku_shisaku/usudakatuyaku/011520.files/1.pdf (2017年8月8日確認)
- 28) 佐久市インタビュー、「臼田健康活動サポートセンター」資料による
- 29) 佐久市インタビュー、「臼田地区生涯活躍のまち事業」資料による
- 30) 南部町 (2017) 「南部町生涯活躍のまち基本計画」
http://www.town.nanbu.tottori.jp/user/filer_public/e8/b7/e8b70e81-8023-4cb3-8fc9-12955ac6a5ba/sheng-ya-huo-yue-nomachiji-ben-ji-hua-zui-zhong.pdf (2017年8月8日確認)、南部町のインタビューによる
- 31) 南部町 (2016) 「地域再生計画」
http://www.town.nanbu.tottori.jp/user/filer_public/8f/a2/8fa24ebd-b788-4033-b0e1-4e4a6d71b52e/di-39hui-ren-ding-nan-bu-ting-di-yu-zai-sheng-ji-hua.pdf (2017年8月8日確認)
- 32) 一般社団法人全国学生連携機構 (2016) 「とりぜみinなんぶ」 <http://jasca.co/category/regional/> (2017年8月8日確認)
- 33) 合同会社ジブンゴトの学習塾チラシ、南部町のインタビューによる
- 34) 南部町 (2017) 「南部町で里山暮らし お試し居住施設」 <http://www.town.nanbu.tottori.jp/satoyama/iju/kyoju/> (2017年8月8日確認)
- 35) 南部町の空き家活用制度パンフレット http://www.town.nanbu.tottori.jp/user/filer_public/51/29/51297e54-db2e-433b-b3aa-a3af081722fa/kong-kijia-huo-yong-zhi-du-chirashi.pdf (2017年8月8日確認)
- 36) NPO法人なんぶ里山デザイン機構 (2016) 「なんぶ里山デザイン機構について」 <http://www.nanbu-satoyama.jp/about.html> (2017年8月8日確認)、南部町及びNPO法人なんぶ里山デザイン機構のインタビューによる
- 37) NPO法人なんぶ里山デザイン機構パンフレット
- 38) 公益社団法人青年海外協力協会 (2016) 「南部町版CCRC (生涯活躍のまち) 鳥取県と連携協定締結」
<http://www.joca.or.jp/information/h28/20160913.html> (2017年8月8日確認)、南部町及び青年海外協力協会のインタビューによる
- 39) 株式会社アスリートプランニング (2017) 「地方創生プロジェクト 鳥取県南部町 生涯活躍のまち移住体験ツアー」 <https://go-sousei.com/lp/nanbucho/> (2017年8月8日確認)

文献

- 月刊介護保険編集部 (2015) 「特集 生涯活躍のまち (日本版CCRC) 構想の可能性
めざすのは“要介護にしない”ビジネスモデル」『月刊介護保険』236 12～
19ページ、法研
- 月刊シニアビジネスマーケット編集部 (2017a) 「日本版CCRCに潜むビジネスチャ
ンスの芽 「民公産学」の連携で健康なまちづくりの産業化を」『月刊シニアビジ
ネスマーケット』2017年6月号、38～41ページ、法研
- 月刊シニアビジネスマーケット編集部 (2017b) 「高齢者+学生+ファミリーの多世
代共生をコンセプトとする国内初のカレッジリンク型CCRC 桜美林ガーデンヒ
ルズ」『月刊シニアビジネスマーケット』2017年6月、34～37ページ、法研
- 松田智生 (2017) 『日本版CCRCがわかる本 ピンチをチャンスに変える生涯活躍の
まち』法研
- 斎藤清一、三好秀和 (2017) 『高齢社会の医療介護と地方創生 一億総活躍時代の日
本版CCRCと地方包括ケアのあり方を問う』同友館

本研究は科研費(「北海道における日本版CCRCの成果評価 東京圏高齢者の移住
構想の事例分析」研究代表者 大橋美幸)の助成を受けたものである。